



国道112号七日町大通り及びその沿道における社会実験の概要

- ★七日町商店街と市が協働で実施した社会実験です。
- ★コロナ禍のため、広報やイベントを大々的に実施することはできませんでした。

1 社会実験の実施日時及び実施箇所

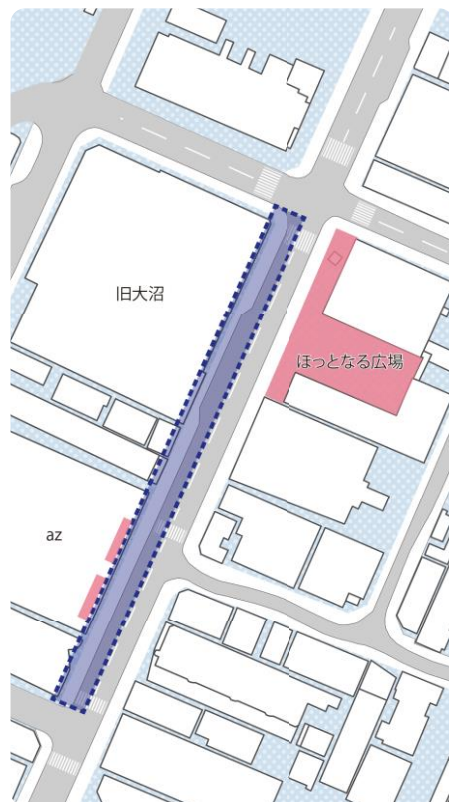
- 広場実験①：ほっとなる広場
 - ・令和3年 9月6～11日（月曜日～土曜日）
- 広場実験②：ほっとなる広場+公開空地
 - ・令和3年 9月12日～15日（日曜日～水曜日）
- 1車線交通規制（左車線）L=約150m
 - ・令和3年 9月16日～19日（木曜日～日曜日）



▲ほっとなる広場



▲1車線交通規制



▲実験区間

2 調査事項

- 滞留行動調査／ビジターアンケート調査
- ／七日町商店街店主アンケート調査
- ／交通量調査・渋滞長調査

3 滞留行動調査結果（滞留：3分以上一定の場所に居る）

○ほっとなる広場

- ・実験期間中、日平均109人が滞在（通常時、日平均78人）
- ・飲食をする人が23%、会話が19%、携帯電話を見るが19%、遊びが16%
⇒飲食や遊びなどの行動が発生し、まちなかの滞在空間としての有効性を実証できた。

○国道112号1車線規制

- ・主な滞留場所はバス停前とaz七日町前
- ・実験期間中、日平均114人が滞在（※）（通常時、日平均56人）
- ・何かを待っている人が23%と最も多い
- ・飲食は13%で、そのうち大半が休日
- ・休日は、商店街によるスタンプラリーイベントが開催され、その来訪者が主な飲食滞在者
⇒バス待ち時の休憩場所や、商店街と連携することによる飲食行動を促進する場としての有効性を確認できた。



▲区間別滞留者数

（※）2時間に1回、調査員が30分かけて路線を往復し確認した人数であり、実数はこの値よりも多い

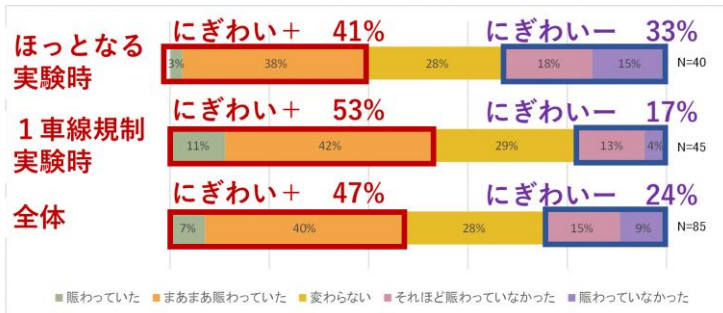
4 ビジターアンケート調査結果概要

- にぎわっていたと感じていた人は47%と、にぎわっていなかったと感じていた人(21%)の2倍以上だった。(ほっとなる広場+1車線規制時の合計)
- 1車線規制時はにぎわっていたが53%と、さらに多い。

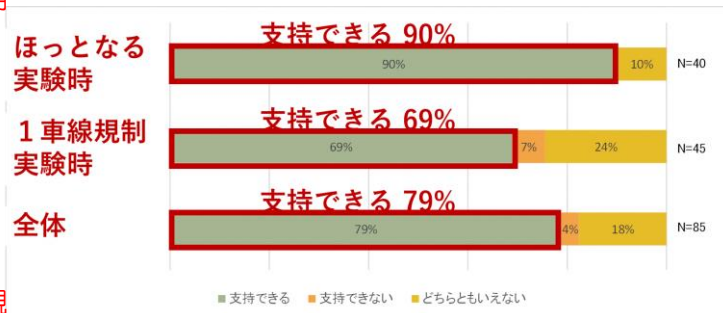
⇒国道112号の1車線交通規制により、中心市街地におけるにぎわい形成を図ることが期待される結果となった。

- 取り組みへの支持では、支持できるが79%と大部分を占めた。
- 1車線規制時では、支持できるは69%とやや低く、自動車交通への懸念や道路のすぐ横では寛げない等の意見があった。

⇒自動車交通の課題解決により、1車線交通規制を進めていくことが期待される。



▲にぎわっていたと感じたか



▲取り組みへの支持

5 七日町商店街商店主アンケート調査結果概要

- 実験を踏まえた道路空間の望ましい姿の設問では、現状のままで良いが30%で最多となり、さらに本設問への回答は有効回答数の60%程度が無回答と多かった。

⇒沿道店舗の意識醸成に向け、継続的な道路利活用社会実験の継続が必要である。

6 交通量調査・渋滞長調査結果概要(7時~19時 12時間調査)

【実験時】令和3年9月16日(木)~9月19日(日)
 ※ 通常時の状況を9月下旬に調査した。

【国道112号七日町大通り】

- 平日は通勤時間に渋滞が発生、慢性的に混雑した。
- 土曜日は、お昼時や夕方前に混雑した。
- 日曜日は、スムーズに流れていた。

【周辺道路】

- 国道112号東側の市道(No.1,2)では渋滞なし。
- 影響の大きかった平日では、実験区間で700台程度交通量が減少し、東側市道で600台程度の増加が見られたが、渋滞は発生しなかった。



▲主な交通量の変化



▲調査区間

- トラカンデータとの併用により、中心市街地における南北方向と東西方向の交通容量を検証し、現在計画中の都市計画道路整備が完成すれば、国道112号を1車線規制・前線歩行者空間化した場合でも十分に交通を処理可能な道路網が形成されることを確認した。
- 荷捌き車両への対処が課題であり、今後はその検討及び実験による検証を予定している。